

製品名: PTP IA-2 β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16664**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	111kDa

抗原情報

遺伝子名	PTPRN2
別名	PTPRN2; KIAA0387; Receptor-type tyrosine-protein phosphatase N2; R-PTP-N2; Islet cell autoantigen-related protein; IAR; ICAAR; Phogrin
遺伝子 ID	5799.0
SwissProt ID	Q92932
免疫原	抗血清はヒト PTPRN2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 206-255

背景

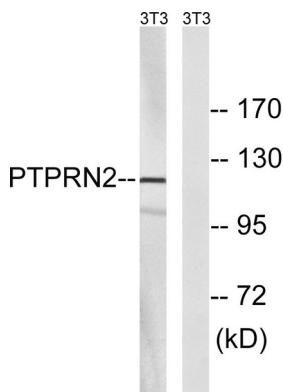
この遺伝子は、受容体型タンパク質チロシンホスファターゼと配列相同性を持つタンパク質をコードしています。しかしながら、こ

のタンパク質のチロシンホスファターゼ活性は実験的に検証されていません。ラットの相同遺伝子を用いた研究では、コードされているタンパク質はホスファチジルイノシトール 3-リン酸およびホスファチジルイノシトール 4,5-二リン酸を脱リン酸化できるホスファチジルイノシトールホスファターゼとして機能する可能性があり、この機能はインスリン分泌の調節に関与している可能性が示唆されています。このタンパク質は、インスリン依存性糖尿病における自己抗原として同定されています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2015年2月],触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H₂O = タンパク質チロシン + リン酸。 ,疾患: インスリン依存性糖尿病 (IDDM) における自己抗原。 ,ドメイン: 細胞質ドメインには自己抗原エピトープが含まれていると考えられる。 ,機能: 神経系および膵内分泌細胞の発達に関与する。 ,PTM: 連続する塩基残基において、複数のタンパク質分解切断を受けると考えられる。 ,類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属する。 受容体クラス 8 サブファミリー。 ,類似性: 1つのチロシンタンパク質ホスファターゼドメインを含む。 ,組織特異性: 脳と膵臓に最も多く存在する。 気管、前立腺、胃、脊髄にはより低い濃度で存在する。 ,

研究分野

1型糖尿病;

画像データ



PTPRN2抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。